

開発建設部

国道管理の取り組み

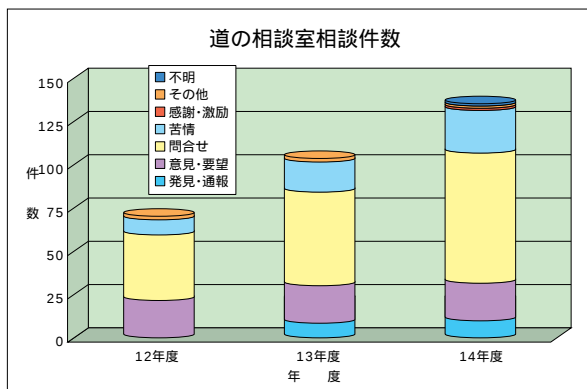
開発建設部道路管理課では、道路を安全で快適に利用できるよう様々な業務を行っています。最近の主な取り組みを紹介し道路の役割や大事にしたい気持ちを理解いただければ幸いです。

道路の管理について

一、「道の相談室」

「道の相談室」は、沖縄県内の高速道路、国道、県道に関する総合的な道路相談窓口として相談・問い合わせ、意見、提案等を受け付け、利用者からの情報を各道路管理者に伝え、適切な対応を行うことを目的に平成十二年

三月二十七日に開設されました。これまで寄せられた相談件数は毎年増え平成十四年度は百三十五件を越える状況となっています。



相談内容は、問合せが最も多く、道路管理者の問合せや、工事の完成時期、目的地への移動方法等の質問が寄せられています。

また、苦情や通報では、除草や、側溝蓋のガタツキ、歩道上の看板の指導要請、道路の沈下など、安全確保に

必要な情報も寄せられています。また、相談室以外にも三百件を越える相談も寄せられており今後も安全で快適な道路の確保のため、道の相談室の役割が重要となっています。

二、ボランティアサポートプログラム

ボランティア・サポート・プログラムとは、直轄国道の歩道等の美化・清掃プログラムで、地域の歩道に設置された植樹帯等の美化や歩道の清掃に、地域の方や企業の皆さんが実施団体となり活動します。

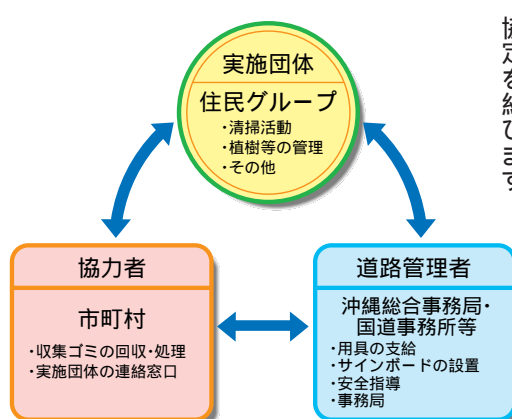


その活動団体に対して、国道事務所及び市町村が協力し、清掃用具の貸し出し・実施団体名入りサインボードの設置及びゴミの処理等を支援し、地域の共有財産である道路への愛着を深めています。

プログラムの仕組み

「実施団体」「道路管理者」「協力者」の三者で協定を結びます。さらに、具体的な細かな取り決めは確認書で行います。

協定の締結
「実施団体（住民グループ等）」、「協力者（市町村）」、「道路管理者（国道事務所）」の三者で、プログラムを実施する区域、期間、作業内容について協定を結びます。



現在のボランティア実施団体（住民グループ等）は十四団体で約四一の区間を清掃や美化に努めています。地域の道路を親しみのもてる道路としてボランティアへ参加していません。

【現在活動中の団体名称】

イオングループ十二店舗・琉球ジャスコ本社・プリマート・マックスバリュ（有）・セイナリゾット（株）（有）・ケイエム産業（株）（有）・沖縄建設弘済会・開建OB会（株）（有）・（株）当山土木・沖縄全日空リゾート（株）・宜野座村松田区・沖縄県舗装業協会・琉球ダイハツ販売（株）・嘉手納国道通り会・嘉手納町西区婦人会

沿道環境改善事業について

最近、車を運転していて、なんとなくタイヤ音が静かになる道路が増えたと感じませんか？

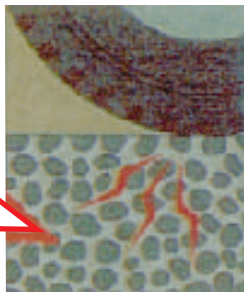
そのような道路はいわゆる「低騒音舗装」と呼ばれる舗装を実施しています。低騒音舗装は、沿道環境改善事業の一環として、道路の騒音が、ある基準値を超過する場合に施工する舗装の一つです。ここでは、車を運転しているときにはなかなか気付かない、低騒音舗装と通常舗装の違いや低騒音舗装のメリットについて紹介します。

一 低騒音舗装の構造

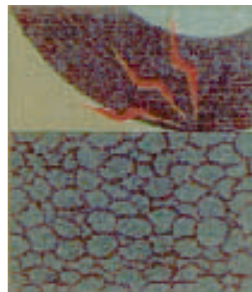
一般にアスファルト舗装を構成している材料は、石などの骨材、石油から作られるバインダーなどの瀝青材ですが、通常舗装、低騒音舗装ともに基本的に同じ材料を使用しています。しかし図に示すように、低騒音舗装の構造は、通常舗装に比べて見た目も粗く、隙間がたくさんあります。このため、タイヤ音は舗装面の隙間に吸収され、低騒音舗装を施工した道路の周辺は交通騒音が低減されます。単純に舗装断面に多くの隙間を作れば低騒音舗装になるのではないかと考えるかもしれませんが、骨材と骨材を結合させる、いわばつなぎ材の役目を果たすバインダーの存在が重

要になってきます。低騒音舗装に耐久性のないバインダーを使用すると、大型車両が走行したとき、隙間が潰れたり、骨材が飛んだりするため、低騒音どころか、舗装としての機能を損なうことになります。低騒音舗装は適度な隙間と良好なバインダーによって成り立っているといっています。

走行騒音が
減って
静かになる



■ 排水性舗装



■ 通常舗装



雨天時の通常舗装



雨天時の低騒音舗装

二 低騒音舗装のメリット

舗装断面に隙間の多い低騒音舗装ですが、タイヤ音の低減だけでなく、雨水を路面から排水する機能に優れています。このため低騒音舗装は別名「排水性舗装」とも呼ばれます。雨天時の車の運転は、路面のグリップで視界が悪い、ブレーキの際に滑りやすい状態になり危険です。また、歩行者への水はねも気になります。低騒音舗装の施工により、そのような懸念が払拭されると考えられます。

三 今後の課題

低騒音舗装は隙間があつてこそ、その意味をなすものですが、土砂等が隙間に入り込んだ場合、目詰まりの状態となりタイヤ音の低減効果が悪くなります。低騒音舗装の機能を維持させるためには、路面清掃など適度な間隔で維持管理を行っているところですが、良好な沿道環境を保つために、道路を利用する皆様のご協力が必要であることをご理解していただきたいと思います。

交通安全事業の取り組み

交通安全事業は、一種事業と二種事業に区分されています。ここでは、交通安全事業の最近の状況について紹介します。

一 交差点改良

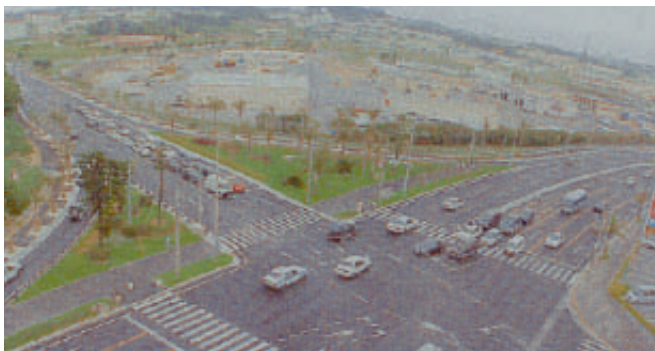
沖縄県の陸上交通は道路のみに依存しており、道路における交通渋滞は大都市に匹敵する混雑状況となっています。その結果、渋滞損失額についても全国の上位にランクされる状況となっています。

沖縄総合事務局では、短期で効果的な整備効果が期待できる交差点改

- 一種事業（歩道、自転車歩行車道、横断歩道橋、交差点改良、登坂車線及び付加車線等）
- 二種事業（道路照明、防護柵、道路標識、道路情報提供装置、区画線、地点標等）

「P I (Public Involvement)方式」とは？

施策の立案や事業の計画・実施などの過程で、関係する住民・利用者や国民一般に情報を公開した上で、広く意見を聴取し、事業に反映させる方式のこと。



北谷交差点



上之屋交差点

良事業に積極的に取り組んでおり、近年では国道五十八号浜川交差点、国体道路入口交差点、同北谷・謝苅交差点を完成させ、同上之屋・天久交差点は平成十五年三月末の完成を目指しています。

なお、北谷・謝苅交差点、上之屋・天久交差点について、P I方式を導入し道路利用者からご意見をいただきました。

事業実施後、渋滞長が緩和され通過時間等も短縮されています。皆さまも効果については実感されていることかと思えます。

二 道路標識

道路標識については、沖縄総合事務局・沖縄県・日本道路公団の道路管理者において、外国人へわかりやすい道路案内標識とするため、道路標識設置基準・同解説に基づき英語表記（ローマ字）を日本語と併記してきました。また、通常の文字による案内だけでなく、それを補完するピクトグラム（絵文字）を整備しています。しかし、同基準に基づいて表記されているものの、同一地点の英語表記（ローマ字）が異なる標識があり混乱を生じている箇所があり、ピクトグラムについても視認性や認識性について問題があるとの指摘がありました。

そのため

識経験者および道路利用者をメンバーとした検討会をもとに、英語表記（ローマ字）の統一とピクトグラムのデザインの見直しを行い、今年度末（平成十五年三月）に、沖縄ブロック道路標識適正化委員会で決定していくこととしています。



空港



バスターミナル

○ピクトグラムの例

○英語表記（ローマ字）の例

国際通り	Kokusai Street
首里城公園	Shurijo Castle Park
平和祈念公園	Heiwakinen Memorial Park
識名園	Shikinaen Royal Garden

次期電線類地中化整備計画の策定について

電線類の地中化については、昭和六十一年度から始まる、電線類地中化計画に基づき、関係機関及び地域住民の方々などの協力の下に、道路管理者及び電線管理者が積極的に推進しています。

これまでに、沖縄県の玄関口である国道三三二号、国道五八号、那覇市（浦添市）や国際通り、那覇新都心地区、モノレール沿線の道路など二七路線で整備延長約六十六の電線類の地中化を実施してきました（一部予定含む）。

平成十一年度を初年度とする第四

電線類地中化実績

（単位： ）

	全 国	沖 縄
第1期（S61～H2）	約1,000	-
第2期（H3～H6）	約1,000	10.5
第3期（H7～H10）	約1,400	21.5
第4期（H11～H15）	3,000	34.1
合 計	約6,400	66.1

■電線共同溝整備事業

安全で快適な歩行空間の確保、都市災害の防止、都市景観の向上等の観点から、電線共同溝などによる電線類の地中化を推進しています。



一般国道58号 那覇市松山

期電線類地中化計画が平成十五年度で終わることから、現在、国、県、各市の関係機関及び電線管理者等で構成される、沖縄ブロック電線類地中化協議会において、次期電線類地中化整備計画の策定に向け検討を進めています。

次期地中化整備路線の選定にあたっては、県内の各自治体はもとより各地域に在る商工会等へも地中化要望路線のヒアリングを行っています。その結果、百九十五路線、約三百の要望があがっています。全ての要望路線を地中化できればよいのですが、予算の制約もあり、各要望路線の道路特性、景観性や関連事業などを考慮し絞り込みを行わなければなりません。

平成十五年度中には、沖縄県の均衡ある振興発展に役立つ地中化整備計画を策定したいと考えています。

新規購入機械について

平成十四年度の建設機械整備事業において四台の道路維持用機械の交換購入を行った。その中から沖縄初の導入となる次の二台を紹介します。

一、道路パトロールカー

安全で快適な道路を維持するため、毎日行っている道路パトロールに今回、地球温暖化防止、沿道環境改善を目的として、低公害車であるハイブリット車を選定、導入しました。



道路パトロールカー（低公害車）

二、路面清掃車

近年、沿道環境対策の一環として低騒音舗装の整備が進んでいます。低騒音舗装は、舗装の空隙に空気が逃げ、走行騒音が生じにくい舗装ですが、空隙が目詰まりが生じるとその性能が低下していきます。

今回導入した路面清掃車（真空循環式）は、今までの路面清掃車（ブラシ式）と違い、路面に空気を吹き付けることにより路面及び舗装空隙内の塵埃を吹き起こし吸引する構造を有し（簡単に言えば掃除機と同じ）、それにより舗装の目詰まりを起りにくくし、低騒音舗装の機能維持を図る事ができます。



路面清掃車（真空循環式）